

1

① 科目

②

外国

③

弱気

④

夕日

⑤

電線

※④ 「夕陽」も可

2

① おさけ

②

おかし

③

考える力

④

ウ

⑤

夜ふかし

⑥

ア 2

⑦

イ 1

⑧

ウ 1

3

① ないだろ う

②

ウ

③

さむい

④

お母さん

⑤

ア

⑥

ウ

⑦

イ

⑧

楽

⑨

なみだ

⑩

生

配点

1 各2点×5=10点

2~3 各5点×18=90点

<計>100点

1 漢字の書きとり問題は小学校二年生までに学習したものを出题している。①「カ」「モク」と音読みする漢字はいくつかあるが、「科目」という言葉でおぼえておこう。②「ガイコク」⑤「デンセン」も同じことである。「ガイ」「コク」あるいは「デン」「セン」という音読みをそれぞれ漢字にするというようなやり方ではなく、「外国」「電線」という言葉をそれぞれおぼえる。いづれ「街」「害」「伝」「選」「戦」「洗」「染」といった漢字も学ぶことになる。③「よわき」は「強気」の反対で、言ったりしたりすることに自信がない感じである。

2 1 問題をよく読むと「たとえば何ですか」となっている。「きたないよごれた空気」よりも「もつと悪いもの」が血の中にまじるときがあるが、その悪いものにはたとえばどのようなものがあるかときいている。二行あとにも「血の中に」という言葉が出てくる。そこに「おさげや悪いもの」とある。

2 すぐ後ろに「よっぱらいが……」とある。よっぱらいは、1に出てきた「もつと悪いもの」である「おさげ」をのみすぎてよっぱらっているのである。

3 「すばらしい」という言葉が第一段落にも出てくる。「考えたり工夫をしたりすばらしいことをうみだしたりする力」という部分だが、この問題は「四字でさがし」となっているので、似たような四字の言葉をさがす。「くがある脳。」につながるようにすることにも気をつけよう。

4 「このようにわたしたちの脳は、とてもいたみやすく」という部分である。「このように」とあるので、ここまでに書いてあったことを思い出そう。脳が、ずきずきしたりがんがんだりするように「痛くなる」ということは書かれていなかった。脳のはたらきが悪くなるということが書かれていた。この「いたむ」は「痛む」ではなく「傷む」と書き、きずがついて悪くなってしまふということである。イは「悼む」と書き、なくなった人のことをかなしむことである。

5 「ここより後ろ」とあるので、「きたないよごれた空気」や「おさげ」ではない。つづく段落に「脳のつかれをとるにはねむることです」とあるので、その反対がつかれる理由になる。

6 ア きれいな空気は考える力をまし、ねむると脳のつかれはとれる。しかし、ねむったからといって空気がきれいになるはずはない。

イ 本文六行めから「血の中におさげ……がまじると……赤ちゃんみたいなへんなことをしてしまう」と書かれていた。ウ 第一段落の内容である。

3 1 少し古い言い方で、文章などではまだよく使われる。「明日ははれるだろう」というのを「明日ははれよう」と言うのもこれと同じである。

2 「木立も……獣は……魚は……」となっているところである。「風もふけば雨もふる」と同じで、ならべる働きをしている。この星が話していることをはじめからたどってみると、「いまごろは、だれも、このさむさに……」とある。「さむさ」が理由であるが、「くこと。」につながるようにぬき出すことに注意する。

4 —線④の五行あとに「お母さんは、この夜中に起きて……」と書かれている。「赤ちゃん」はまだ起きていない。⑤「いっていません」につながる。⑥「年がいていませぬのに」「世の中に出て働いて」いるのである。⑦家が貧しく働かなければならないので、夢だけでも楽しい夢を見せてやりたいということである。

6 「姉のほうの子」の「顔に、やさしいほほえみが浮かんで」いるのである。この部分は、「どんな夢を見ているだろうか」というしつもんに対する答えになっている。

7 —線⑨をふくむ一文を読むと、「無邪気なほおの上になみだが流れて……光が、それを照らしています」となっている。一文を読めば答えがすぐにわかる問題はたくさんある。

8 なぜ疲れているのかを考えれば答えになる。もちろん、働いているからだが「くをして疲れている」につながるようにぬき出すのがむずかしい。「昼間の疲れ」や「働いて」ではつながらない。